

資料3-2

オープンハウスパネル (案)

令和7年10月23日 沖縄県交通政策課

様々な可能性を皆さんと検討しましょう

オープンハウスを開催しています

将来に向けた沖縄の新しい交通のあり方を描くため「次世代交通ビジョンおきなわ(仮称)」の検討について、県民の皆さんのご意見を幅広くお聞きする場として、「オープンハウス(パネル展示を中心とした情報提供)」を令和7年11月より県内各圏域で開催しています。



オープンハウスの参加予約は不要です。どなたでもご自由に参加できます。

ビジョンStep1_ver1.0



次世代交通ビジョン おきなわ(仮称)とは・・・

「次世代交通ビジョンおきなわ(仮称)」とは、県内の交通渋滞や公共交通の不便さ といった課題を解決し、県民の誰もが快適に移動でき、日々の生活を安心して過ご すことのできる沖縄を目指すため、県では、将来に向けた沖縄の新しい交通のあり 方を示すビジョンを検討することとしました。

具体的には、自家用車への過度な依存の脱却、県民生活の質の向上、地域経済の活性化、カーボンニュートラル、世界から選ばれる持続可能な観光地の実現など、沖縄県の戦後100年にあたる2045年を見据えた新しい交通のあり方、将来像を描く構想の策定を目指します。

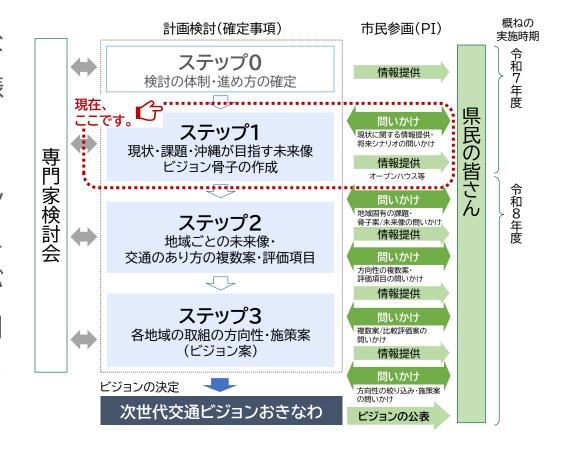
ビジョンStep1_ver1.0 ##



本ビジョンの検討の 進め方とポイント

本ビジョンの策定にあたっては、おきなわSDGsや沖縄21世紀ビジョンと同様の手法を取り入れて進めます。

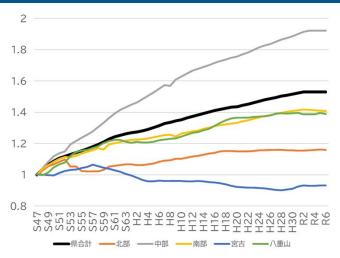
関連する政策分野との整合性を確認しながら、県民の皆さんとの対話やコミュニケーションを通じて、意見を反映しながら進める参加型の手法(PI手法)を活用して、段階的に論点整理を進めてまいります。



ビジョンStep1_ver1.0 ## #

成長する沖縄

- 沖縄県は、1972年に本土へ復帰して以降、人口が伸び続けており、
- 特に中部では人口が1.9倍にまで増加しています



人口の伸び率(S47年を1とした場合)

- 県内総生産も、 本土復帰後50年で約10倍に増加
- 観光客数は増加傾向にあり、2018 年には1000万人を突破しました



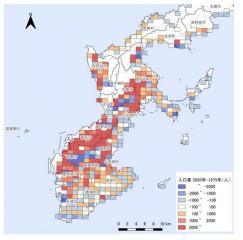


観光客数・観光収入の変化

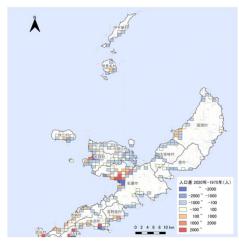
資料:沖縄県市町村別推計人口 資料:沖縄県県民経済計算 資料:沖縄県 観光要覧

市街地の拡大と集中

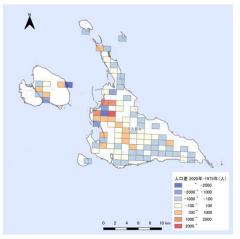
- 中南部では、郊外で人口が増加し、市街地が拡大する傾向にあります
- 一方、北部や島しょ部では、中心部に人口が集中する傾向がみられます



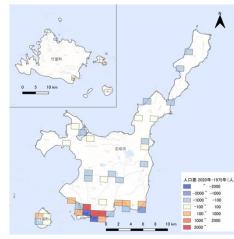
1975~2020の人口変化(中南部)



1975~2020の人口変化(北部)



1975~2020の人口変化(宮古)



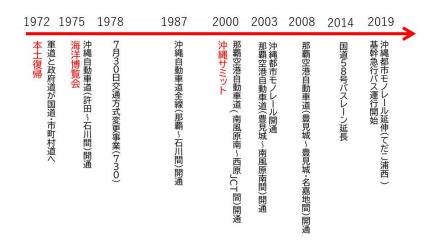
1975~2020の人口変化(八重山)

資料:国勢調査

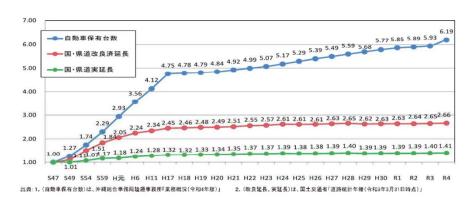
交通の発達

■ 本土復帰後、様々な交通整備が行われました

沖縄県では、高速道路、モノレール、バスレーンなど、さまざまな交通モードの 整備が進められてきました。



沖縄の自動車保有台数は本土復帰後の約6倍に増加しています



自動車保有台数・道路延長の変化

出典:沖縄総合事務局(https://www.dc.ogb.go.jp/hokkoku/yan koku/11nenpyou/index.html) ゆいレールHP(https://www.yui-rail.co.jp/company/history/) わったーバス党HP(https://www.watta-bus.com/currenttry/) 沖縄県の道路2024,沖縄県,2024年 (https://www.pref.okinawa.jp/ res/projects/default project/ page /001/034/606/02 2024.pdf)

公共交通の取組

■ かつて沖縄を走っていた鉄道が、再び復活に向けて動き始めました。

かつて軽便鉄道が走っていた沖縄。太平洋戦争で失われましたが、2003年にゆ いレールが開通。今、那覇と名護を結ぶ新たな鉄道が計画されています。



軽便鉄道



ゆいレール



鉄軌道構想

■ バスに定時速達性を持たせるため、様々な取組を実施しました。

• バスの運行遅延の改善や所要時間の短縮を図るため、PTPS(公共車両優先シス テム)の導入や、期間急行バスの運行、国道58号へのバスレーンの設置を進めて います。





画像出典: 沖縄県(https://oki-tetsukidou-pi.com/tetukicou/wp 党HP(https://www.watta-bus.com/currenttry/)

#

6

増加する移動と自動車利用

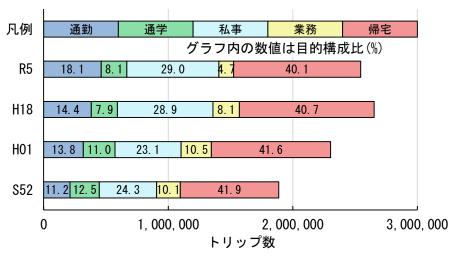
沖縄県は、1972年に本土へ復帰して以降、人口が伸び続けており、特に中部では人口が1.9倍 にまで増加しています

買い物や娯楽を含む私事を中心に、沖縄中南部の移動量は増加

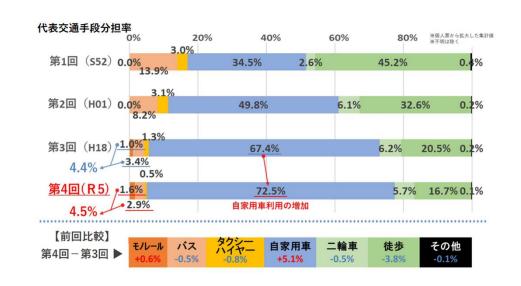
■ 移動手段は公共交通・徒歩から自動車へ

移動の仕方も大きく変わりました。公共交通や徒歩が中心だった移動は、自動車 中心の移動へと変わりました

PT調査実施年



総トリップ数・目的構成比の変化



代表交通手段分担率の変化

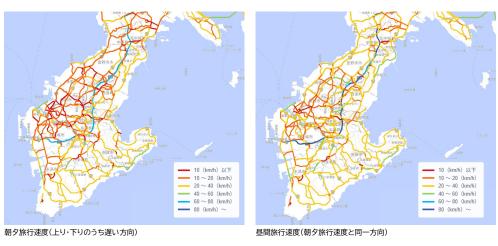


道路交通の状況

- 平日朝夕の旅行速度は昼間の旅行速度と比べて低く、
- 渋滞しがちな傾向にあります。

渋滞が及ぼす影響

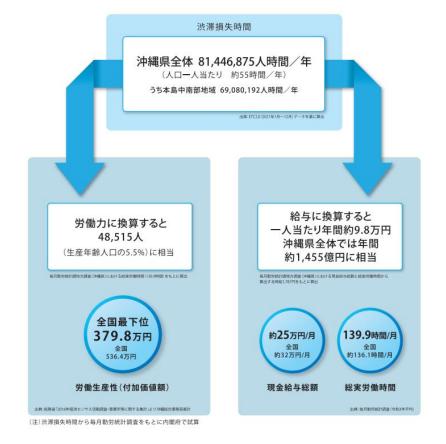
■ 渋滞は、企業活動や働き方の効率性に影響を及ぼしています



平日混雑時旅行速度(中南部)



平日混雑時旅行速度(北部)



出典: 令和3年度 一般交通量調査結果WEBマップ(可視化ツール) (https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-data/census_visualizationR3/index.html)

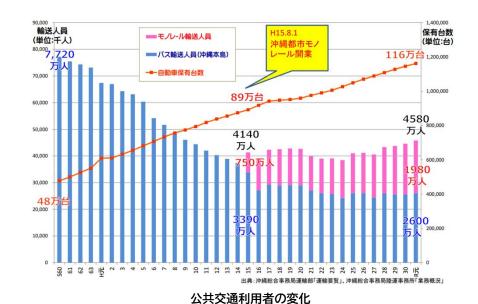
出典:沖縄のこれから、内閣府沖縄総合事務局

ビジョンStep1_ver1.0 ## 0



公共交通の状況

■ 公共交通利用者数は本土復帰後、減少傾向。最盛期の6割程度です。



■ 公共交通の担い手である運転手も、50歳以上で過半数を占めている状況です。

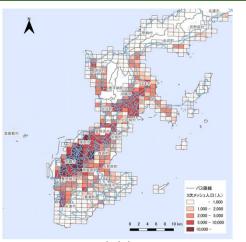


本島4社運転手年齢構成

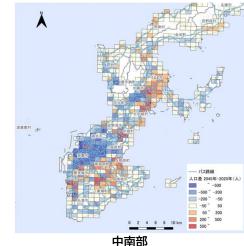
出典:TDMアクションプログラム,沖縄県,2022年 (https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/012/765/202212_tdm_ap_3-1.pdf) 出典:沖縄県,https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/012/755/249.pdf

公共交通の沿線人口

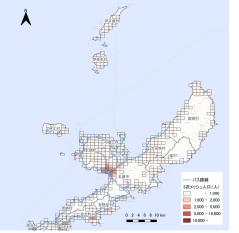
- バス路線は人口が多いところを中心に運行しています。
- 2045年にかけて大きく人口が減少する予定ですが、減少が予定されている地域には、現在バス路線が運行されている地域も多く含みます。



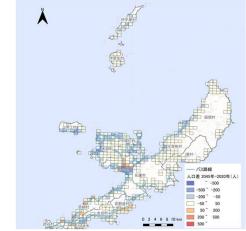
中南部 3次メッシュ(1kmメッシュ)人口



3次メッシュ(1kmメッシュ)人口・2045年と2020年の差分



北部 3次メッシュ(1kmメッシュ)人口



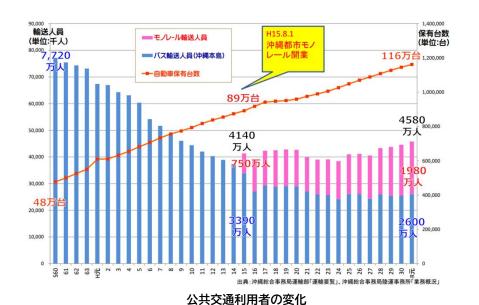
3次メッシュ(1kmメッシュ)人口・2045年と2020年の差分

データ出典: 令和2年国勢調査、国土数値情報

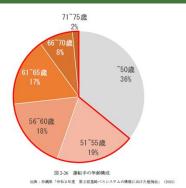


公共交通の状況

■ 公共交通利用者数は本土復帰後、減少傾向。最盛期の6割程度です。



■ 公共交通の担い手である運転手も、50歳以上で過半数を占めている状況です。

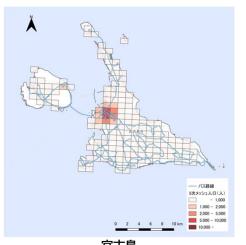


本島4社運転手年齢構成

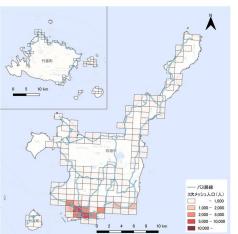
出典:TDMアクションプログラム.沖縄県,2022年 (https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/012/765/202212_tdm_ap_3-1.pdf) 出典:沖縄県.https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/012/755/249.pdf

公共交通の沿線人口

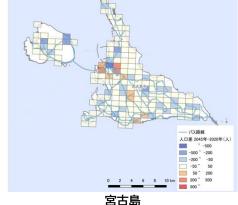
- バス路線は人口が多いところを中心に運行しています。
- 2045年にかけて大きく人口が減少する予定ですが、減少が予定されている地域には、現在バス路線が運行されている地域も多く含みます。



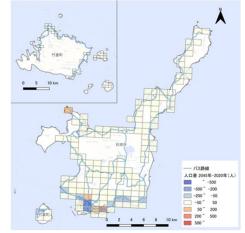
宮古島 3次メッシュ(1kmメッシュ)人口



八重山諸島 3次メッシュ(1kmメッシュ)人口



3次メッシュ(1kmメッシュ)人口・2045年と2020年の差分



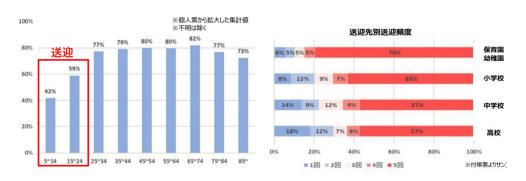
八重山諸島 3次メッシュ(1kmメッシュ)人口・2045年と2020年の差分

3次メッシュ(1kmメッシュ)人口

データ出典: 令和2年国勢調査、国土数値情報(バス路線、R6国政局推計)

生活と密接に関わる自動車利用

- 子供の送迎の割合が高く、子供の自動車分担率は4割です。
- 毎日送迎している方の割合は、保育所・幼稚園で約8割、小学校~高校で約6割 程度です。



年齢階層別 自動車分担率(送迎含む)

送迎先別送迎頻度

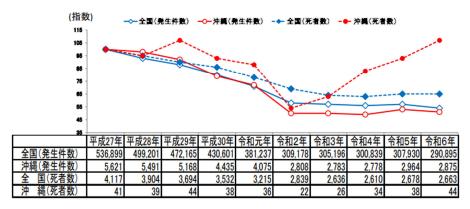
■ 沖縄の自動車維持費は全国的に見ても高い傾向にあります。



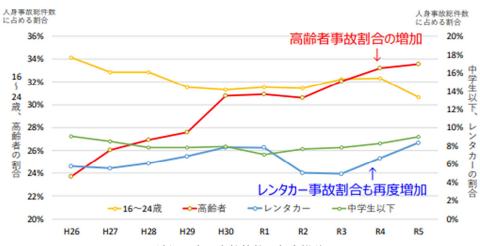
世帯調査支出内訳

出典:全国家計構造調査,総務省,2019年 沖縄中南部都市圏PT調査 計画課題に関する現況分析,2024年 (https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/012/938/genkyoubunseki1-2.pdf) 交通事故

■ 沖縄の交通事故は増加傾向にあり、高齢者やレンタカーの事故の割合が増加傾向です。



交通事故発生件数と死者数の推移(全国・沖縄比較)

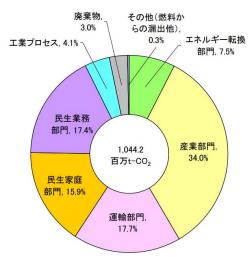


沖縄県交通事故件数の割合推移

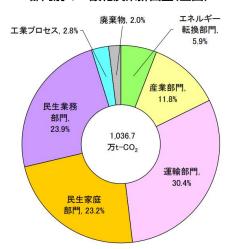
出典:令和6年度沖縄県警交通白書

地球環境への影響

■ 全国と比較して沖縄は運輸部門の二酸化炭素排出量が高い傾向にあります。



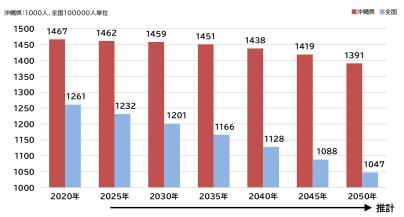
部門別の二酸化炭素排出量(全国)



部門別の二酸化炭素排出量(沖縄県)

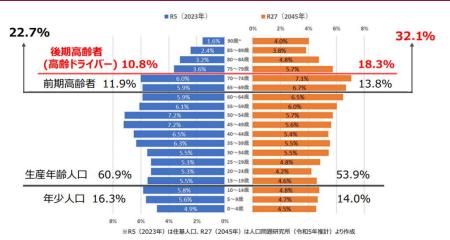
将来人口の見通し

■ 沖縄県の人口は今後、減っていく見込みです。



人口問題研究所による将来推計人口

2045年には、高齢化率が10ポイントほど増加します。 特に、後期高齢者がの割合が高まる見込みです



年齢階層別人口(2023年)と推計人口(2045年)

次世代 交通ビジョン おきなわ

問1.

これまで進められてきた道路やモノレールの整備は、皆さんの生活にどのような変化をもたらしましたか?

また、皆さんの生活や沖縄社会にどのようなメリットをもたらしましたか?







問2.

日々の交通混雑に悩まされつつも、自家用車がないと暮らしていけない状況があります。

日常生活に欠かせない「移動」について、 皆さんは日頃、どのような不便や不安を 感じていますか?

また、何が問題なのでしょうか?







問3.

このような状況が今後も長年に渡って続くとしたら、沖縄社会や将来世代の生活にどのような影響があると考えますか?

失ってしまうのではないか心配になること はありますか?







問4.

今後、社会情勢が大きく変化した場合、将来の生活や移動にどのような影響を及ぼす恐れがあるでしょうか?

急激な人口 の減少や 高齢化 基地返還や都市 開発に伴う人口 の急増と地価の 高騰

インバウンド観 光の急増

燃料価格や 電気料金の 高騰 公共施設の維持 管理コストの負 担急増







問5.

将来の沖縄での生活や社会にとって失ってはならないことは何ですか?

ご自分の将来や次世代にとって、何を残すことが大事だと考えますか?

家族や友人と 過ごす時間

自然とのふれあい

学びの機会

健康、生きがい

所得!

安全と安心

文化・余暇

**111

長牛き







問6.

次世代交通ビジョンおきなわ(仮称)の検討の「進め方」について、ご希望やご 懸念などはありませんか?













次世代 交通ビジョン おきなわ

次世代の交通のあり方を 考えるために・・・

私たちの暮らしやまちの姿は、交通のあり方で変わります。 自動車が中心の社会、公共交通が中心の社会、徒歩や自転車が中心の社会…。 それぞれにメリット、デメリットが色々とあると思います。

みなさんは、将来の沖縄県の交通はどのような姿がよいと思いますか? それぞれのメリット、デメリットともに、どのような社会が良いのか考えてみましょう。

自動車が便利な社会



公共交通が便利な社会



徒歩や自転車が便利な社会





メリット・デメリットを 書き込んでみよう メリット・デメリットを 書き込んでみよう メリット・デメリットを 書き込んでみよう

ピジョンStep1_ver1.0